

令和6年度

実践と研究の記録

きしわだ

第43号

大阪府立岸和田支援学校

目 次

I. 教育活動等のまとめより	
「防災×電池デイキャンプ」の取り組みについて	首席 有山暁雄 . . . 1
II. 実践報告	
動く楽しさと伝わる喜び	野中純子（自立活動・研究部） . . . 9
～電動車いすとタブレット端末をコミュニケーション学習 の教材として活用した取り組み～	
III. 事例研究	
	指導教諭 川並しのぶ . . . 13
令和6年度府立支援学校「パッケージ支援」を活用した 教員の授業力向上に関する研修の取り組みについて	
IV. 近肢研 第70回夏季研修会（実技講座）について	自立活動・研究部 . . . 18
「歩行が不安定な子どもたちへのアプローチと 身体の動かし方について」	
講師 畑中良太（大阪川崎リハビリテーション大学）	
V. 校内教材交流会	自立活動・研究部、進路支援部 . . . 24

「防災×電池デイキャンプ」の取り組みについて

首席 有山 暁雄（小学部）



1. はじめに

今年度初めての防災に関する取り組みとして、学校、地域（医療）、保護者間で必要とする対策及び情報の共有をめざすために、大阪府医療的ケア児支援センターと連携し、PTA 主催行事の「防災×電池デイキャンプ」を実施した。この取り組みは、大規模災害のみの想定ではなく、身近な災害にも対応できるよう準備（必要なもの・ことを把握）し、災害発生後、各家庭での初期対応を早め、さらには防災意識の向上及び関係機関との連携をはかることを目的とした。

この報告では、実施するまでの準備や当日の内容、参加者の感想等で、その成果をまとめるとともに、課題や問題点等を明らかにし、今後の取り組みに活かしていきたい。

2. 実施内容

①日時・・・令和6年11月30日（土）13:30～15:30

（午前中は各学部とも授業参観を行い、全校13:10下校後に開催）

②場所・・・体育室、運動場、特別教室、バス車庫

③参加者（申し込み人数を記載）

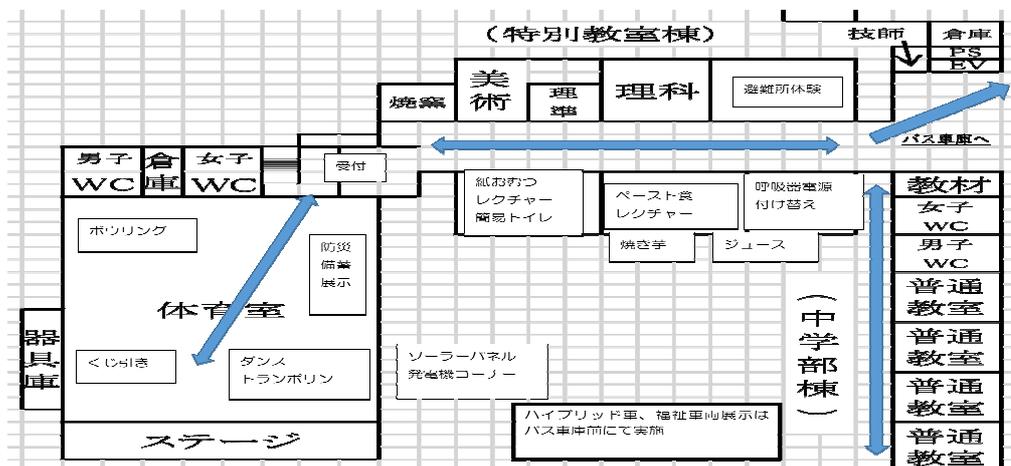
児童生徒26名、保護者47名、きょうだい児10名、本校教職員

外部（学校関係11名、保健所関係15名、福祉関係2名、ブース担当25名）

④内容と担当

- ・非常時のペスト食等についてのレクチャー（大阪府医療的ケア児支援センター担当）
- ・災害時のおむつ使用等についてのレクチャー（川村義肢エイドセンター大阪担当）
- ・避難所体験コーナー（岸和田市役所危機管理室担当）
- ・ハイブリッド車の電源を使用したコーナー（トヨタカローラ南海岸和田店担当）
- ・電源付け替えコーナー（大阪府医療的ケア児支援センター担当）
- ・防災用の焼き芋機を用いた非常食喫食（PTA 担当）
- ・発電機を使用した児童生徒お楽しみコーナー（PTA 担当）
- ・校内の防災備蓄品展示コーナー（教員担当）

⑤会場図



3. 実施に向けての主なスケジュール(関係機関とは随時メールや電話で打ち合わせ)

令和6年1月	PTA 実行委員会で実施要項提案、承認
令和6年2月	職員会議で実施要項提案、承認
令和6年5月	PTA 総会で防災対策費より予算を支出することで承認
令和6年5月	職員会議で実施内容や役割等を提案、承認 PTA 実行委員会で実施内容やPTA 担当ブースの確認
令和6年6月～	各部署にて担当のブース内容の詳細検討、必要な準備物作成
令和6年8月	協力いただく関係機関へ案内、派遣依頼文書送付
令和6年8月	第1回大阪府医療的ケア児支援センターとの打ち合わせ
令和6年9月	保護者や関係機関に行事の案内文書配付、参加申し込み受付開始
令和6年10月	第2回大阪府医療的ケア児支援センターとの打ち合わせ 職員会議で各ブースの進捗状況や参加申し込み状況報告
令和6年11月	当日のタイムスケジュール等の詳細をポータルサイトで共有

4. 学校やPTAの主な準備物

全体・・・案内文、ポスター、会場図、デイキャンプカード(子ども用)、シール、案内掲示、景品、ブース掲示、参加者名簿、舞台のバック掲示(学習発表会のバック絵を再利用)

ブース用・・・さつまいも、ジュース、炭、焼き芋機、焚火台、バーナー、火ばさみ、軍手、ミキサー、ガスコンロ、ガスボンベ、やかん、紙コップ、大型TV、タブレット機器、エアートランポリン、送風機、ボウリング用具、千本引きセット、簡易トイレ、校内備蓄品、発電機、コードリール、ポータブル電源、ソーラーパネル

5. 各ブースの内容紹介

①非常時のペースト食等についてのレクチャー

【担当】大阪府医療的ケア児支援センター

【内容】大阪母子医療センターの管理栄養士の皆様に非常時のペースト食を中心にレクチャーしていただいた。ポータブル電源やミキサー、カセットコンロ、本校に備蓄している非常食を使用し、ペースト食を作り、いかにバランスよく栄養を補うのか、詳しく教えていただいた。45分×2回のレクチャーであったが、どちらも調理室が満員になる賑わいであった。

*レクチャー資料は別紙参照



②避難所体験コーナー

【担当】岸和田市役所危機管理部危機管理課

【内容】避難所体験コーナーということで、岸和田市役所の皆様に段ボールベッドやテント式トイレ、プライバシーテントを設置していただき、来場者が実物を見て体験することができた。避難所で過ごす際に役立つグッズや実際に災害現場に行かれて体



験した生のお話をたくさん伺うことができ、各家庭で避難する際の準備について考える機会となった。

③災害時のおむつ使用等についてのレクチャー（臭い防止や身体清拭用品等）、簡易トイレ展示

【担当】川村義肢エイドセンター大阪

【内容】本校 PTA のサークル活動でも何度かお話を伺っている川村義肢エイドセンター大阪からレクチャーしていただいた。ビニール袋を使った代用おむつの作り方や排泄物の拭き取りがしやすくなる保湿剤のサンプル、いろいろなおむつの紹介等、役立ちそうな情報をたくさん教えていただいた。実際に下腹部の模型を使って教えていただき、大変わかりやすかった。段ボール箱やペットボトルで作る簡易トイレも好評であった。



④ハイブリッド車の電源を使用したコーナー

【担当】トヨタカローラ南海東岸和田店

【内容】学校近くのトヨタカローラ様と連携し、ハイブリッド車と福祉車両の展示をしていただいた。ハイブリッド車から取った電源で、暖房をつけたり、福祉車両に試乗したりした。いざという時には車から1500Wもの給電ができることや電気製品の消費電力などを教えていただいた。また、車から給電した想定で、本校のわたあめ機を使ったわたあめ作りも行った。口の中で溶けるわたあめは、子どもたちに大人気だった。



⑤電源付け替えコーナー

【担当】大阪府医療的ケア児支援センター

【内容】ゆたかな株式会社の臨床工学技士に来ていただき、人工呼吸器等の様々な医療機器についてお話していただいた。ポータブル電源やソーラーパネルから医療機器に電源をつなぎ、どれくらいの電力消費量があるのか、デジタルエコチェッカーも使いながら、電力消費量を実際に数値で見えるようにして教えていただいた。なかなかお話を伺う機会の少ない医療機器の説明を、参加者は興味津々に聞いていた。



⑥防災用の焼き芋機を用いた非常食喫食

【担当】 PTA

【内容】 以前より防災用に保管している焼き芋機を使い、本格的な石焼き芋作りをした。キャンプ道具やバーナーで炭に火を起し、PTA 役員が農家より取り寄せた立派なさつまいもを調理した。この焼き芋機は一度に20本くらい調理でき、上部の庫内で保温もできるもので、大人も子どもも大満足の表情で頬張っていた。大阪府医療的ケア児支援センターのペースト食ブースともコラボし、焼き芋ペーストも試食できた。



⑦児童生徒お楽しみコーナー

【担当】 PTA

【内容】 災害時は緊張が続くため、リラックスできる場所や物も必要となる。PTA では、子どもたちが楽しめるコーナーを校内にある器具や発電機から取った電源で作れないか考えた。ボウリング、千本引き、発電機の電源を利用したユーチューブダンスやエアートランポリンの4コーナーは、児童生徒、きょうだい児に大人気で、時間いっぱいまで全力で遊んでいた。



⑧校内にある防災備蓄品展示コーナー

【担当】 教員

【内容】 PTA では各家庭に非常用の持ち出し袋を用意していただき、長期休みに賞味期限など点検していただいている。学校に保管している防災備蓄品もお知らせしているが、現物を見たことがない人も多かったのではないだろうか。非常用の食品やトイレ用品、寝袋や毛布など、見たり、触ったり、寝転んだりして、「こんなものもあるんや」と参加者は驚いていた。



すべてのブース制覇で景品(バスボム、長期保存ビスケット)をゲット!



6. 参加者アンケート結果と感想

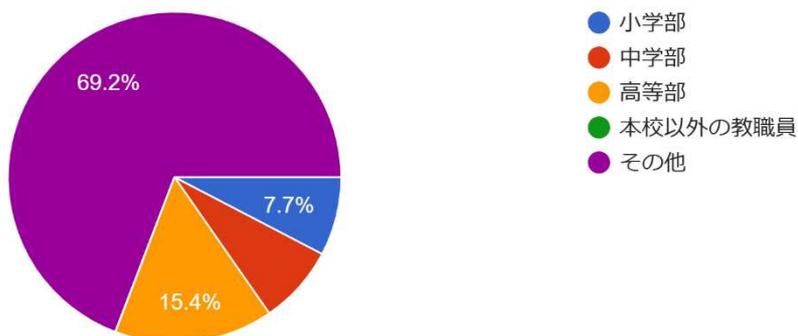
参加者アンケート

参加者に対しまして、以下の設問についてアンケートを取った。

13件の回答を得ることができた。

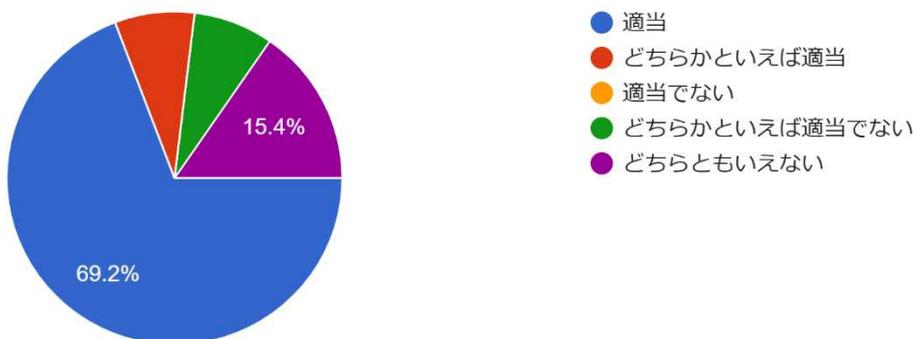
1. 所属 お子様の所属学部または、ご自身の所属をお答えください。

13件の回答



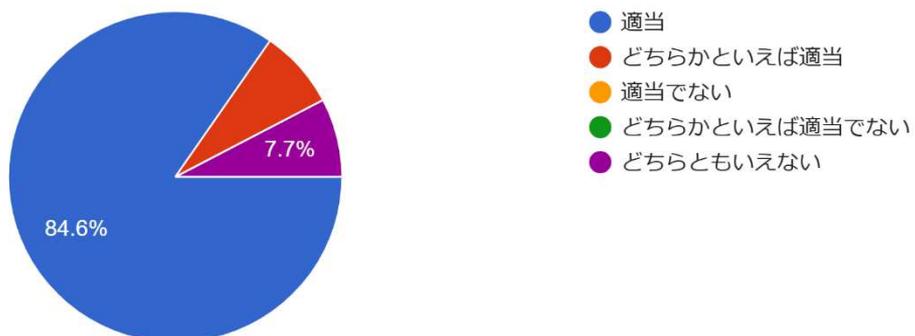
2. 日時について 土曜日参観後の午後からの開催でしたが、いかがでしたか。

13件の回答



3. 場所について 体育室、特別教室、バス車庫前での開催でしたが、いかがでしたか。

13件の回答



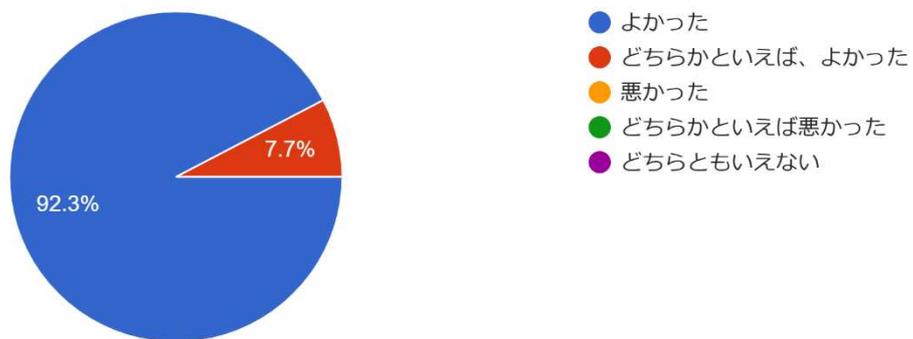
4. 防災×電池デイキャンプの各ブースについて、...スにチェックを入れてください。（複数回答可）

13件の回答



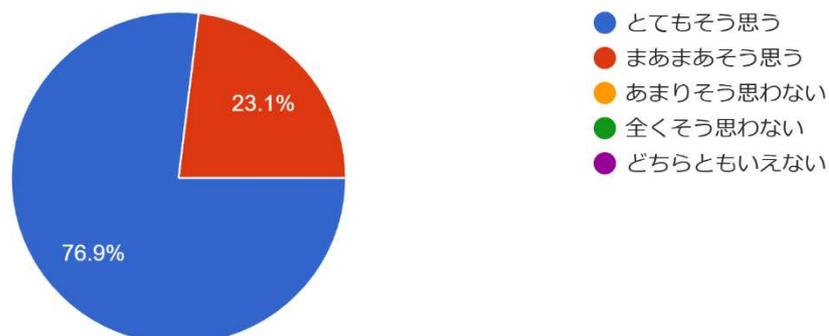
5. 防災×電池デイキャンプの全体的な内容について、いかがでしたか。

13件の回答

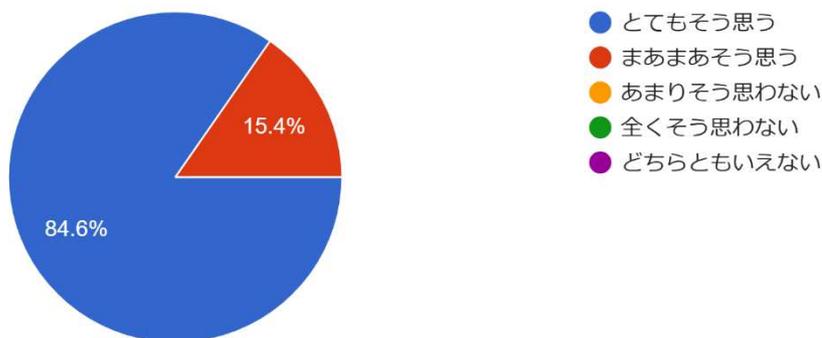


6. 防災への意識が高まったと思いますか。

13件の回答



7. この防災×電池デイキャンプで得たことを、今の生活や職務に生かすことができると思いますか。
13件の回答



参加者からの感想

- それぞれのブースで丁寧に説明を受けることができ、支援対象者や自分自身の備えについて、具体的にイメージを深めることができました。ここで得た知識やご縁を今後の活動に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- 資料があればよいと思った。
- 岸和田市の福祉避難所にもなっているので、具体的にイメージができてよかったです。
- 体育室のアクティビティが最高に楽しかったです。子どもが大きくなり思い切り遊ばせてあげられる場がなかったので、親子共々大喜びでした。難しいとは思いますが、卒業してからも参加できたらいいなあと思いました。避難所体験では想像よりも快適に過ごせると知ることができたり、簡易トイレの作り方を学んだりするなど、とても参考になりました。医療的ケアがなくても参加できるということをもう少しアピールしてもよかったかなと思います。日頃から防災意識の高い父親も来たがっていたのですが、参観終了からの空き時間が長かったので、今回参加できず残念でした。
- 防災電池デイキャンプに参加させていただきありがとうございました。児童生徒、保護者及び学校関係者の方と直接お話することができて大変良い機会になりました。
- ほんと参加してよかったです。他にも放課後等デイサービスなど、たくさんの方が参加できたらと思います。来年度も開催を希望します。自衛隊のブースや AED の使い方なども体験したいと思います。
- 医療的ケア児支援センター事業に栄養チームが参加させていただけて嬉しかったです。少しでも多くの方に、ミ

キサー食を広めることができる良い機会になったと思います。

- 医療的ケア児支援法には、栄養の専門家である管理栄養士の栄養介入についての記述がありませんが、医療的ケア児の支援者として管理栄養士の存在が当たり前になるように、これからも活動していきたいと思いました。
- 岸和田支援学校のデイキャンプ、企画から実行まで大変練られた内容で、患者様ご家族の満足度も高かったのではと思います。個人的にもバッテリーや自動車給電、避難所での生活など、為になる内容が多かったですし、患者様たちからすると BRM の実演を見られる機会もあまりないと思うので大変よい企画だったと思います。あとはこれにより行動変容がどれだけ生じたか。実際に避難訓練を行って、今回得た知識を各家族で実行できるかまで確認できれば、最高だと思います。ただ岸和田支援学校のポテンシャルなら出来そうな気がします。まずは今回のような企画を年 1 回の恒例にして継続していくことが、何より大切かなと思いました。

7. おわりに

アンケート結果でみると、「全体的な内容」「防災意識が高まったと思うか」「今の生活や職務に生かすことができるか」の質問には、肯定的な回答が100%であった。各ブースについても良かったという回答が平均70%を上回っていた。参加者のニーズが異なるので、肯定的な意見が70%を超えているということは、満足のいく結果であったと考える。一方で、保護者や児童生徒の参加人数を増やす工夫、各ブースの詳細な分析、新たなブースの検討、ブース担当者が互いのブースを見学できる設定等、改善点や課題も多数出てきた。初めての取り組みということで、まずはできることからスタートしたが、今後は毎年 1 回の開催を恒例とし、防災意識の向上や関係機関、地域との連携を高めていく一助となればよい。

動く楽しさと伝わる喜び

～電動車いすとタブレット端末をコミュニケーション学習の教材として活用した取り組み～

野中 純子（自立活動・研究部）

■要旨：本研究は、自力での移動や言語でのコミュニケーションが困難な児童生徒に対して、スイッチで操作できる電動車いすでの自力移動に加え、タブレット端末をコミュニケーションツールとして使用し、コミュニケーション学習を実施した指導事例である。

■キーワード：自力移動、スイッチ操作、タブレット端末、シンボル選択、

I. はじめに

本校は、平成 19 年度に寄贈された電動車いすを 1 台所有し、自立活動の時間の指導を中心に使用している。この電動車いすは、インターフェイスを接続することで、ジョイスティックレバーによる操作以外にも、様々な入力装置を接続し操作が可能なものである。そのため電動車いすの購入に先立ち、練習用として使用する以外にも、色々な活用の方法が考えられ、本校では多くの児童生徒が使用している。例えば障がいの重い児童生徒にコミュニケーション手段として AAC 機器の使用を考えた時の前段階の指導として、スイッチ遊びをすることがある。これはスイッチにおもちゃを接続し、スイッチを押したときにおもちゃが動く変化に気付かせ、スイッチとおもちゃとの因果関係の理解を進める指導である。その際、視覚聴覚にハンディを有する児童生徒には、動くおもちゃよりも自分の身体にダイレクトに刺激が入る方が理解しやすい。電動車いすであれば、移り変わる景色、走行中の振動、顔に当たる風、スイッチから手を離れたときの止まった感覚、室内から室外に出た時の温度変化や太陽の眩しさ等、多くの刺激を受けることで理解を深めることができる。

またこれから挙げる事例のように、スイッチと物との因果関係を理解し、人とのコミュニケーションを楽しめる力をもっているにもかかわらず、自力移動が困難で車いすや座位保持装置等での移動に介助を必要とし、さらに発声によるコミュニケーション手段を持たない児童生徒への活用である。介助者が尋ねてくれなければ、行きたいところもしたいことも伝えることができない環境が続くと、したいことも諦めて伝えたいという気持ちも失っていく。そのような児童生徒にスイッチを押すだけで動く電動車いすは、自らで動くことの楽しみの発見となり、この喜びの気持ちを他者に伝えたいというコミュニケーション意欲を高め、さらには自分にはできるという主体性をも育む。そして、このしたいことや行きたいところを伝える手段として、ここではタブレット端末を活用した。タブレット端末上のシンボルから行きたいところを選択し、目的地では他者とタブレット端末を使ってやりとりする活動を通して伝わる喜びを感じることができると考えた。そこで今年度、週 1 時間の自立活動のコミュニケーションの時間を利用して継続的に指導実践した事例を挙げる。

Ⅱ. 対象生徒の実態

中学部3年生の男子。脳性まひ（アテトーゼタイプ）による不随意運動があり、自分で何かしようとするすると全身に緊張が入り、上肢での操作が困難になる。自力では座位姿勢を保持することが難しい。発話は困難であるが、内言語は高く、質問の意味を理解して発声や表情で Yes/No を伝えることができる。

小学部に在籍していた時からコミュニケーション手段の獲得が課題であった。カードの使用や AAC 機器の使用など色々な方法を試みたが、筋緊張のコントロールが難しく低学年の時は Yes/No も第三者には判別が難しいこともあった。しかし、心身の成長とともに随意的に上肢を使えることが増え、返答の発声も見られるようになり、他者とのコミュニケーション意欲が高まっていることも感じられた。中学部に入ってから、少しの支援でタブレット端末上のシンボルを選択し画面をタップすることができ、タブレット端末をコミュニケーションツールとして使用することが可能になってきた。2年生の時に、タブレット端末を使って母に「お母さん、大好き。いつもありがとう。」というメッセージを送り、日頃の感謝の気持ちを言葉にして伝えることができたことは本人にとり、大きな自信と喜びとなった。

Ⅲ. 指導内容

1 学習目標と指導の内容

【学習目標】

- (1) 行き先やコースを自己選択・自己決定して、教員に伝える。
- (2) 筋緊張をコントロールしながらスイッチの ON/OFF ができる（身体の使い方を知る）。
- (3) タブレット端末により他者とのやりとりができる。

【指導内容】

- (1) 行きたいところや移動コースなど、タブレット端末を使いシンボルの選択をする。
- (2) スイッチ1個を使用し、行きたい方向へ前進する・危険回避のために停止する。
- (3) タブレット端末を使い、他者とやりとりをする。

2 指導および経過

5月に初めて電動車いすを操作したときは、使い慣れている自分の姿勢保持装置と違い、姿勢保持のサポートのない電動車いすなので、姿勢の安定が課題となった。それでも本人の期待は大きく、行き先をタブレット端末上の3つのシンボルの中から、職員室を選択し、エレベーターを使って職員室まで行くことができた。ただ筋緊張のため、スイッチから手を離すことが難しく、わかっていても止められない状態であった。ところが毎週の取り組みにより、7月には操作にも慣れて、止まらないといけないうところで止めることができるようになった。また、当初は右手でスイッチを押していたが、ある時に右手の前方にあるスイッチに左手を伸ばして押すようになった。そうすることで、左に体幹が傾く傾向にあったのが中間位で保持できるよ

うになり、強い力が手に入ることなくスイッチ操作を楽にできるようになった。

また毎回、目的地をタブレット端末上から選択していたが、選択数も3択から6択にまで増やして選ぶことができるようになった。2年生の頃は、握った右手の先で画面をタップしていたので、画面上に2～3つのシンボルを選択することが限界であったが、3年生になって人さし指や中指をたててタップすることができるようになり、一気に選択数を増やすことができた。指導開始当初は、外に出ることを楽しみとし、バスや車を選択して写真を撮ることが多かった。しかし、タブレット端末を使用して、



目的地で教員や学校看護師に依頼して、一緒に写真を撮ったり、クイズに回答してもらい、正解を伝えたりすることで、もっとたくさんの人とやりとりがしたいと言い、校内を選択することが多くなった。このようにタブレット端末を使って他者とのやりとりを楽しめるようになり、さらに本児のコミュニケーション意欲が高まったことを感じることもできた。教員に写真を撮らせてもらったときは、撮り終わると発声で「ありがとうございました」と伝えることができた。また自分の好きなキャラクターは何かというクイズでは、クレヨンしんちゃんとドラえもんの二者択一で、本当はクレヨンしんちゃんの方が好きなのに、一生懸命考えてくれた学校看護師がドラえもんを選択すると、すかさず正解の○をタップするなど相手の気持ちを気遣う様子もみられた。また2階に上がったときは、復路をスロープで行きたいと希望することが多くあった。中学部の教室は1階にあるため、スロープを利用することが少ない。スロープを下っていく感覚が好きであることに気付き、直線部分は高速走行に切り替えると、声を出して喜びながらスイッチを押し続け、スリル満点のジェットコースター気分を感じているようであった。このように週1回の授業であったが、自分で好きなところに動けることと、タブレット端末を使って他者とのやりとりができることを楽しみとし、毎時間主体的に取り組む姿が見られた。

IV. おわりに

本事例で挙げたように、スイッチで動く電動車いすをコミュニケーション学習に取り入れる指導をこれまで多くの児童生徒に実施している。「自分にもできた」という達成感が感じられやすく、何よりも自分で動けることの楽しさが、その先の活動に対しても良い影響を及ぼす。廊下ですれ違う人に「自分で動けるなんてすごいね。」と声をかけられることで、発声や表情・視線で返答ができた子。保健室で体温計を借りてくるという課題をやり遂げて、「ありがとう」のお礼の言葉に、とても嬉しそうな、また得意げな表情を見せてくれる子。タブレット端末を指さして自分が移動している姿を録画して欲しいと要求し、それを担任や保護者に見せて褒めてもらいたいと考える子。好きな教員や友達を見つけると大きな声を出して呼べた子。急に電動車いすを止めて、廊下にあるドラえもんの看板を指さして、好きなんだと伝える子。「押して」

「せいの」「おいで」「止めて」の言葉を理解してスイッチを押したり離したりができるようになった子。このように自らで動くということは、自分から周辺環境に働きかけることでもあり、物や人への関わりを主体的に求めることができるということでもある。そこで自分の思いを他者に伝えたいという意欲が育まれる。この時にタブレット端末をコミュニケーションツールとして利用し、自分の意思が相手に伝わった瞬間に感じる喜びが、次のコミュニケーション意欲へとつなげることができると思う。今後も児童生徒の持っている力を発揮できる教材として、電動車いすやタブレット端末を活用した指導に取り組みたい。

1. 実践報告

令和6年度府立支援学校「パッケージ支援」を活用した教員の授業力向上に関する研修の取り組みについて

自立活動・研究部

■ 要旨

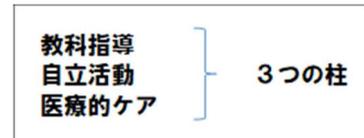
令和6年度については、大阪府教育センターによる府立支援学校「パッケージ支援」を活用し、年間を通して教員の授業力向上に関する研修に取り組んだ。

大阪府教育センター カリキュラム開発部 支援教育推進室 指導主事による講義や授業見学、指導助言を仰ぎながら、**別表**の年間計画に基づき研修を進めた。

研修のメインテーマを「肢体不自由支援学校における教科指導の在り方とは？」とし、教科指導の視点を重視することを共有し、本研修を通して小学部・中学部・高等部の教員が相互に連携を深め、肢体不自由校における教科指導について学び合う機会とした。

取り組みを進めるにあたり、教科指導に加えて自立活動の指導と医療的ケアを肢体不自由支援学校における指導の3つの柱とし、メインテーマに沿って授業実践や授業見学、研修の中で大切にしたい視点を以下の4点にまとめ、共有した。

- 1 自立活動の指導を基本とした支援とチームティーチングの在り方
- 2 自立活動の時間の指導と教科指導の関連
- 3 主担教員、サブ教員、医療的ケアのある児童生徒については学校看護師との協同
- 4 発達年齢だけでなく、生活年齢を意識した教材設定



■ 内容

今年度は音楽科・美術科（図工科）・体育科の3つの教科を取り上げた。

小学部・中学部・高等部の教員を全校縦割り3グループ（3教科）に分け、各グループ（各教科）の検討事例として各教科1名の教員が年間を通して教科指導に取り組む中で、指導の工夫や改善点、児童生徒の変容を共有した。

全体会での共有時に各教科の特色が出やすいように、分科会においては各教科分科会における協議ポイントを以下のように定めた。

【各教科分科会における協議ポイント】

音楽科

1. 姿勢保持や楽器操作等の手の使い方の指導（装具、補助具等の活用）

【工夫されたポイント】

児童生徒の得意な動きを生かした複数の選択肢の提示による工夫

2. 歌う・演奏する等、発声や手指の操作性に課題がある児童生徒の支援の方法

【工夫されたポイント】

- ✓ マイクで自分や友だちの声を聴くことで発声を意識させる工夫。
- ✓ 手話、指文字等、身体表現の導入。
- ✓ 楽器に触れたい、演奏したいという意欲が手指の操作を高める工夫。
- ✓ フレーズで声を出して“歌う”という音楽の楽しさを伝える工夫。

美術（図工）科

1. 姿勢保持や用具操作等の手の使い方の指導(装具、補助具等の活用)

【工夫されたポイント】

- ✓ 学習の構えをつくるための工夫として、手元への意識を高めるために導入に手湯や手指のマッサージを取り入れる。リラクゼーション効果も期待できた。
- ✓ 果物の感触、香り等、教材（素材）を五感で味わう工夫。

2. 医療的ケアを必要とする児童生徒への教員と学校看護師が共同した支援

- ✓ 学校看護師と協同しながら、適切なタイミングで医療的ケアを実施する工夫。
- ✓ 気持ちが不安定で授業への参加が難しい場合、教室内に居場所を作ることで場を共有するための工夫。

体育科

1. 姿勢保持や手具操作等の手の使い方の指導(装具、補助具等の活用)

児童生徒の得意な動きを生かした姿勢や補助具の工夫

2. 運動量確保のための工夫（岸和田支援ルールに変更して実施する等、各種スポーツの授業への落とし込み方の工夫）

動きの少ない競技

準備体操でのウォーミングアップで運動量確保するなどの調整

3. 障がい者スポーツとしての取り組み

補助具等の支援の工夫

岸和田ルールの場合は“本物”をきちんと伝える

■ まとめ

研修を通して、改めて“肢体不自由支援学校における教員の専門性とは？”を考え、以下のように学校全体で“気づき”を共有できたことが大きな成果であった。

- ◆ ティームティーチングの良さを活かすために
共通理解の難しさについて…学習指導案の共有、導入でねらいを共有するなどの工夫
- ◆ なぜ？どうすれば良い？を抱え込まない
複数の視点で子どもを見る、語る、一緒に教材を作ってみることの大切さ
- ◆ 伝える言葉の選び方・使い方
…“言葉”だけに依らない、様々なことを子どもたちは教員を見て学び、吸収している。

別表

令和6年度 授業力向上に関するパッケージ研修全体計画

時期	内容	対応者等
6月27日(木)	全体研修①(講義) “公開授業見学ポイ等”	教育C指導主事
7月1日(月)	第1回分科会	【音/美/体】 各分科会
7月1日(月) ～5日(金)	1学期 校内授業公開週間	全学部
7月22日(月)	全体研修②(講義)	大阪大谷大学 小田教授
10月1日(火)	第2回分科会	【音/美/体】 各分科会
10月15日(月) ～18日(金)	2学期 校内授業公開週間	全学部
12月3日(火)	第3回分科会(全体) 各教科会より報告	【音/美/体】 各分科会主担
12月	学部間交流	各部希望者
2月3日(月) ～7日(金)	3学期 校内授業公開週間	全学部 教育センター指導主事
2月18日(火)	全体研修③(まとめ・講義)	教育センター指導主事

授業力向上に関する研修 3 教科分科会構成

	音楽科 23名	図工／美術科 28名	体育科 27名
小学部	和田 (自活研究) 有田 (自活研究) 大野恵 北尾 大植 大野邦 山岡 松本 海堀 9名	萩 (自活研究) 近藤 (自活研究) 榎本 (自活研究) 一枝 川畑 野口 北野武 濱本 末松 島 藤原 田中雅 11名	川並 (自活研究) 大賀 木下 林 杉原 西本 秋山 藤田 鎌苅 田中友 相原 有山 12名
中学部	福本 (自活研究) 野中 (自活研究) 荒川 木村 小橋 諸石 福積 7名	桑名 (自活研究) 藤川◎ 井上鉄○ 小野瀬 井上博 栄田 岡本 北園 8名	吉尾 (自活研究) 箕輪 的場 住本 佐居 面家 吉本 松村 8名
高等部	橋本◎ 鈴木○ 前田○ 高橋 大谷 堀口 6名	今西 (自活研究) 中村 (自活研究) 柴沼 岡田 根耒 東 金 都築 8名	北野繁 (自活研究) 小浦◎ 村上○ 岸村○ 田原 柴田 阪口 7名
集合場所	西ホール	多目的室 (大)	自活室 (からだ)

2025.2.18 府立岸和田支援学校 パッケージ支援全体研修資料

肢体不自由のある児童生徒への授業づくりについて

～今年度の取り組みから～



大阪府教育センター
支援教育推進室

●指導と評価の一体化とは...

学習評価について指摘されている課題

1. 学習評価の基本的な考え方
 - 学習評価の観点について、学校や教員の状況によっては、以下のような課題があることが指摘されている。
 - ・ 学習者や学習者などの得意での評価に傾倒してしまふことが多く、評価の結果が学習者の成長の指標として活用されていない
 - ・ 授業の関心・意欲・態度・態度の観点について、単なる出席や遅刻等ノートをとっているなど、性格や行動面の観点が一体的に表された結果を捉える評価であることが指摘されている
 - ・ 教師によって評価の方法が異なる、学習改善につながらない
 - ・ 教師が評価のための「記録」に労力を割かれて、教壇に注力できない
 - ・ 様々な方法を試みて実践した結果が、次の学年や学校段階において十分に活用されていない

評価の結果が子どもの学習改善や教員の指導改善に結びついていないことが課題として指摘されてきた背景から、学習評価の在り方が検討された。

PDCAサイクルの図解

Plan: 指導計画等の作成
Do: 指導計画を踏まえた教育の実施
Check: 生徒の学習状況、指導計画等の評価
Action: 授業や指導計画等の改善

教師が指導する際の観点と、子どもを評価する際の観点を連動させることで、教育の質的改善をめざす学習評価の在り方へ。

授業の改善と評価の改善を両輪と捉える

※出典：国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(高等学校編)巻頭資料 p.2,3

【岸和田支援学校の今年度メインテーマ】

肢体不自由支援学校における**教科指導の在り方**とは？



授業づくりと学習評価

●評価とチームティーチング

評価する＝目標がある

○本時の目標は、どのタイミングでSTと共有していますか。
(目標は子どもにも伝えることが大切)

○評価を次の授業へ生かすために、教員間でできることは...

○教員が自らの指導のねらいに応じて授業での児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていく。

＝ 指導と評価の一体化

○授業づくりー授業見学からの気づきー

- 生活年齢と発達年齢を意識した取り組み
 - ・子どもの実態に応じた教材・教具の工夫
 - ・インリアル・アプローチの視点を持って
- 「言葉」のもつ重要性
 - ・大人(教員)から発する言葉は、子どもを育む要素の一つ
 - ・支援学校と小・中・高等学校は違う? 違うくない?

【まとめ】

- 「分科会」の効果
 - 教科の枠を超えた授業づくり→誰もが専門的視点がある
- 自ら働きかけることの少ない子どもへの指導・支援を考える
 - 肢体不自由支援学校における課題に皆で向き合う
- その指導・支援は、子どもの社会参加に向けた土台づくり
 - 子どもの認知面・身体面・心理面を育む学校教育

○学習評価について

- 指導と評価の一体化
 - ・なぜ「指導と評価の一体化」が重要とされたのか
 - ・「成績をつけるための評価」から「学習、授業改善のための評価」へ
 - PDCAサイクルを用いて
- 評価とチームティーチング
 - ・評価する際に大切なことは
 - ・チームティーチングの活用

1. 実践報告

令和6年度近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会

第70回夏季研修会（実技講座）について

自立活動・研究部

■ 要旨

近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会が主催する本大会について、今年度で第70回を迎えた。

今年度は「障がいの重い子どもの学びと暮らしを豊かに」を大会テーマに、令和6年8月6日（火）アウターナ大阪にて実施し、大阪府、京都府、滋賀県、奈良県、兵庫県和歌山県の各特別支援学校より計460名の教員が参加した。

研究会前半の全体講演会については、講師として下山直人氏（筑波大学非常勤講師）をお迎えし、「障害の重い子どもの各教科の授業づくり」と題して①肢体不自由児教育の課題②障がいの重い子どもの教育について、③各教科の学びの基盤となる自立活動について④各教科の授業づくりと実際の内容で記録動画を交えて講演いただいた。

研究会後半の実技講座については、全7講座についてそれぞれ担当の支援学校が運営を行った。実際に身体を動かすことを中心とした体験的な内容の講座や各学校の実践発表、学校と繋がりのある関係諸機関と連携した講座等、多様な内容で実施した。

■ 実技講座について

本校は、実際に身体を動かすことを中心とした体験的な内容の講座を企画し、福祉医療関係人材活用事業を活用した運動学習相談を担当いただいている大阪河崎リハビリテーション大学講師の畑中良太氏に講義を依頼し、46名の参加があった。

内容については、【実技講座の記録】を参照とする。

参加者アンケートによると、実技的な内容についての満足度が高いことから、ニーズも高いことがうかがえた。

■ まとめ

近畿地区特別支援学校肢体不自由教育研究会については、自立活動・研究部より運営委員2名を中心に運営に携わり、実技講座については自立活動・研究部全員で事前準備、進行等について対応した。

近畿地区の特別支援学校から多くの教員が参加する大規模な研究会における学びに止まらず、他府県の特別支援学校との交流ができたことも大きな成果であった。

次年度についても運営委員2名を中心に運営に携わっていく予定である。

【実技講座記録】

「歩行が不安定な子どもたちへのアプローチと身体の動かし方について」

畑中 良太（大阪河崎リハビリテーション大学講師）

歩行が不安定な子どもの特徴は原疾患によって様々であり、教員としてどのような視点で課題を捉え、運動学習を展開していくかについて、実際の症例を通して解説いただいた。

変形や拘縮のある子どもの身体を無理に動かすことでストレスがかかり、逆に拘縮を強めることもあり、四肢を動かすにはどの方向に力を入れて動かすのが良いか、どれくらいの範囲で動かすことが適正か等、解剖学に基づいた骨の動かし方について、骨格標本や受講者同士の実技体験を通して学ぶことができた。

また、子どもの反応を介助者自身の手で感じ取りながら行うことの大切さも実技を通して学ぶ機会となった。

歩行が不安定な子どもたちの事例

1 【事例1】脳性まひ（失調型）・中1男子

（1）相談の内容

- ①歩くとき、ふらつきがある
- ②転んだときの対応

（2）失調型の歩行の特徴

- ①歩行速度の低下
- ②歩幅の増加と変動性
- ③体幹の崩れ（まっすぐ保つことができない）
- ④協調性のない歩行パターン（ぎこちない）
- ⑤不規則な足の軌道（定まらない）
- ⑥安定性の低下

（3）重錘負荷による改善例

- ①アンクルウェイト（おもり）をつける。小脳に刺激が入り、ふらつきが軽減される。
重さの目安は足で1kg、手で500g。
*全員が改善するわけではない。

（4）静的バランス練習 …よつ這い（高這い）姿勢による実技 【図1】

- ①よつ這い姿勢で体幹を安定させ、片方の腕を上げる。
- ②よつ這い姿勢で体幹を安定させ、片足を持ち上げる。
- ③よつ這い姿勢で、一方の腕と反対側の脚を持ち上げる。
*静的バランス練習は、しっかりと片足をあげることができていることが望ましい

（5）動的バランス練習1 …膝立ち姿勢による実技 【図2】

- ①膝立ち姿勢で片足を前後に交互に出す。
- ②膝立ち姿勢で片足を横と後ろに交互に出す。
- ③膝立ち姿勢から片足を前に出して立ち上がる立位姿勢から、片足を後ろに引いて膝立ち姿勢に戻ることを交互に繰り返し行う。
*いずれの姿勢も足の膝から下が全て地面に接着している方が姿勢が安定する。

（6）動的バランス練習2 …立位姿勢による実技

- ①立位姿勢で腕を前後に振る。
- ②立位姿勢から、横に一歩足を踏み出す。

- ③立位姿勢から、前方に足を踏み出す。
- ④立位姿勢から、後ろに下がる。
- ⑤階段をのぼる。
- ⑥凹凸のある地面を歩く。

*立位姿勢で30秒間片足を上げた状態を保持するにあたり、目が開いていると安定するが、目を閉じると不安定になることを実技で体感。

視覚からの情報がいかに影響を与えているかを実感できる実技。

片足を上げる際、両手をリラックスさせた状態を保持することが、最も体幹を使っている状態になる。

実 習



【図1】静的バランス練習



【図2】動的バランス練習



(7) 体幹と四肢の協調を鍛えるための全身運動

- ①よつ這い（高這い）姿勢から、片方の腕と反対側の脚を上げる。
腕、脚、体幹を曲げ、腕、脚、体幹を伸ばすことを交互に行う。
- ②膝立ち姿勢から、脚、腕、体幹を曲げる。脚、腕、胴体を伸ばすことを繰り返す。
- ③膝立ち姿勢から、右側に横座りをする。左側も同様に横座りすることを繰り返す。

(8) 外傷を防ぐための転倒を防ぐための手順

- ①立位姿勢から、横にステップ、前方にステップ、後方にステップ、クロスオーバーステップ等、各ステップをランダムに行う。

2 【事例2】ミトコンドリア病 3243 変異・高1女子

(1) 相談の内容

- ①身体がかたくて、姿勢の変換が難しい
- ②痰の排出 *痰の排出時は、側臥位（横向きにする）姿勢をとると良い。
- ③手がかたくなっている

(2) 身体の動かし方の基本

- ①変形や拘縮がある場合、無理に動かすと身体にストレスがかかり、変形や拘縮をさらに強めることもある。

②臥床が長期化することで、筋肉や骨が痩せて細くなり、骨粗鬆症となる場合がある。こうした状態で無理に身体を動かしてしまうと、骨折のリスクが高まる。
→身体を動かすケアは、どの方向に動いた方が良いのか、どの範囲なら動かしても良いのかを子どもの反応を通して、介助者の手で感じながら行うことが基本となる。

(3) 手の不使用

- ①手は機能的な役割を担っている。
- ②手の活動は、課題と連携して起こる。
- ③手の不使用は、学習される。
- ④手の治療と機能回復において特に重要なのは「感覚」の要素である。
- ⑤手に感覚を入力、変化させる。➔ 可動性が維持できる。

(4) 手の骨の成長

9歳から16歳の間に着しく成長するため、この期間が重要になる。

(5) 手首の関節の形状と骨の動き方

実習 手首の関節と動きの確認。指を曲げる筋肉などの動きの確認。



(6) 「指を曲げる筋肉」と「手首の運動」との関係

(7) 指を開く筋肉（虫様筋：骨と骨の間）をよくほぐす。

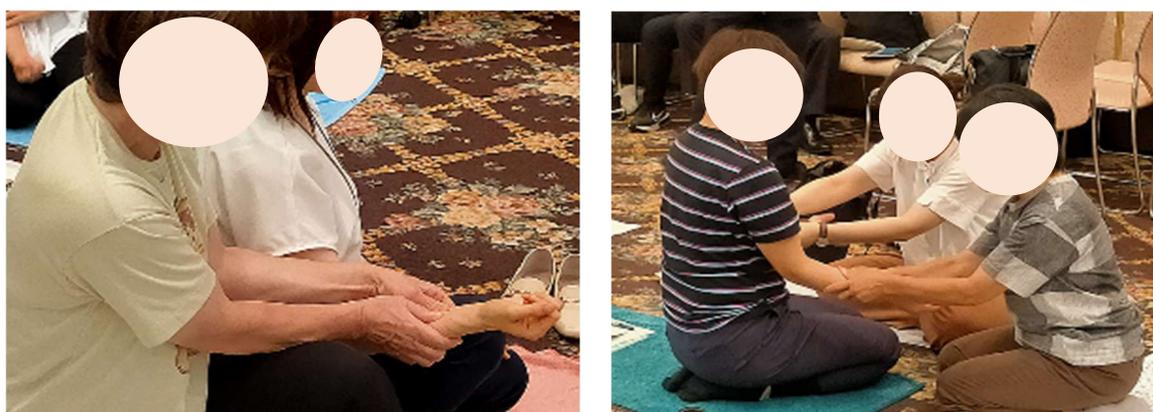
➔ 手が開きやすくなる。（指が細いほうがほぐしやすい。）

(8) 母指球筋（手を開ける筋肉）と小指球筋について

実習 虫様筋をほぐす。

素早く押すのではなく、ゆっくりとじわっと押すようにほぐす。

手を開いていくように、親指と小指のマッサージを行う。





- (9) 指を伸ばす筋肉：指ではなく、腕のほうにあるため、腕をマッサージし刺激を与える。
- (10) 肩の関節“関節は滑りが命”
鎖骨や肩甲骨が動いていないと骨と骨があたり、その近辺が炎症を起こす。
→ 体操や運動時、無理に動かさない。
- (11) 腕を挙げるときの鎖骨や肩甲骨の動きを確認する。
- (12) 鎖骨と肩甲骨を動かす。

実習

最初に両腕を上にあげたバンザイの状態では上げにくい腕を確認する。
上げにくい腕を動かした後、再度バンザイを行うとスムーズに上がることを認識。



←腕だけを動かすのではなく、鎖骨と肩甲骨を一緒に動かす。



(13) 頸の関節の説明：後ろ側に存在している。

(14) 腰の関節の説明：胸を開けるように押して、腰を押し込むようにする。

実習



(15) 膝の曲げ伸ばしの動き：無理に曲げると痛めやすい。

曲げるときは脛骨を後ろに滑らせる。伸ばすときは脛骨を前に滑らせる。



実習 膝の曲げ伸ばしを行う。



以上のように、実習を取り入れることで体感しながら理解が深まり、受講者どうしの交流も楽しみながら、身体の動かし方を学ぶことができた。

V. 校内教材交流会

1. 目的 教材や実践の紹介、交流を行う場として開催する。

日頃の実践のまとめの場や、今後の実践に役立てる場とする。

2. 開催日時 令和6年8月1日(木) 15時45分～16時45分

3. 開設した教材名・概要と開設方法について

方法

- ① 模擬授業(実際の授業展開のように行う)
- ② 実際に参加者と教材を作成する
- ③ 教材を展示し作成方法や使用方法の説明を行う

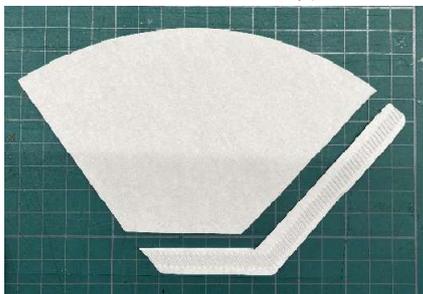
教材名	概要	方法
① 絵具あそび	1学期には絵の具の感触に不慣れな児童が多かったが、年間を通して取り組むことで感触に慣れて活動に取り組むことができた。生活で傘やカッパを着て雨を感じた後、スパッタリングやスポンジを押し当てた飛びちりで雨や水たまりを表現。夏の暑い日には氷絵の具を触って海を描くなど、季節を感じて表現を楽しめた。絵の具の水加減等を変えることでいろいろな絵の具の感触を味わい、楽しんで活動に取り組めた。	③
② アンケート・棒グラフ	興味のある題材をもとに生徒がアンケートを作成する。児童生徒、教員を対象にアンケートを取り、集約する。(紙・グーグルフォーム) 集約したアンケートをもとにグラフを作成する。	③
③ ★ コーヒーフィルターで作る花のメモスタンド	コーヒーフィルターで造花を作り、メモスタンドを装飾する。 (材料: コーヒーフィルター・絵の具・接着剤・リボン・メモスタンド)	②
④ 夏祭り ～スマートボール～	「せいかつ科」(季節の遊び)では夏祭り～屋台遊びをしよう～に取り組んだ。今回は、屋台遊びの一つとして取り組んだスマートボールを紹介する。実際に体験して、使用した教材や工夫したところ、児童たちの様子などを話題提供する。	③
⑤ ひょうたんの栽培・加工	小学部3年生が育てて収穫した千成ひょうたんを使って、中身をくりぬき、起きあがりこぼしを作る。	②
⑥ ★ いろいろな道	せいかつ科で「いろいろな感触の道を歩いてみよう」に取り組んだ。今回は、実際に児童が歩いた4種類の違った感触の道を紹介する。それぞれの児童に合わせて使用した教材や工夫したところ、児童の様子などを話題提供する。ぜひ実際に道の上を歩いて感触を味わってみてほしい。	③

⑦だるま落とし	せいかつ科季節の遊びで、『だるま落とし』に取り組んだ。マスコットの感触で引き抜く棒を選んだり、落ちるボールの音を聞いたり、ボールの動きを目で追ったりと、しっかり感覚機能を働かせて活動できる内容になっている。	③
⑧氷絵具であきまつり飾りをつくろう！	いろいろな素材の感触を味わい、季節の行事を意識することを目的として、夏に氷絵の具を用いた絵をつくった。氷の感触が好きなお子も苦手なお子も楽しんでとりくめるために、とゆを使って転がしたり、棒でつついたりして好きなところに着色できるようにした。秋には年度当初から取り組み見通しがもっている『ちぎって、貼る』活動をして、あきまつり飾りの絵をつくった。	③
⑨★ グラフ読み取りに用いる補助定規や付箋の提案	肢体不自由のある子どもはグラフの傾きをとらえることや、グラフの読み取りが困難な場合が多い。ワーキングメモリの弱い児童生徒も、視点を移動させて、グラフ読み取り記録を保持しきれず、どこを読み取るか、ずれがちである。グラフの読み取り定規を作成して、活用や付箋を利用した指導を紹介したい。	②

★マークの教材についてコーナー紹介をする。

③コーヒーフィルターで作る花のメモスタンド

1. コーヒーフィルターを切る



2. 2回折る



3. 花びらの形に切る



4. 開いてくるくと巻く



5. 1～3をもう1つ作り、4で作ったものを重ねて巻く



6. 完成



完成した
メモスタンド

⑥いろいろな道 ～ 裸足でいろいろな道を歩いてみよう ～

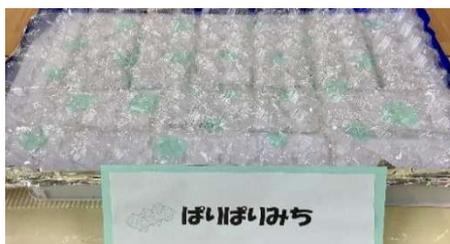
【ゴロゴロ道】(スーパーボール)



【ジャラジャラ道】(パチンコ玉)



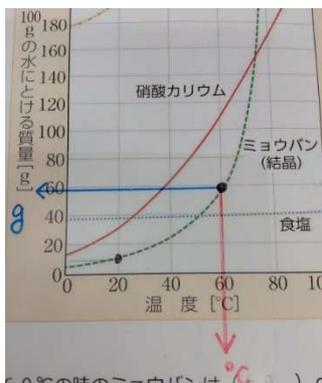
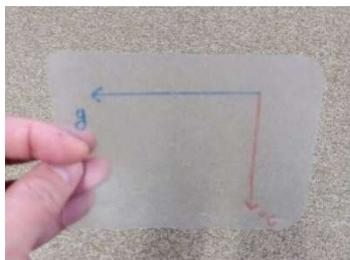
【パリパリ道】(卵パック)



【プルプル道】(スライム)



⑨グラフ読み取りに用いる補助定規



60°Cの時の溶解度の読み取り

定規はクリアファイルを5cm角ほどの大きさに切り抜いて、青マジックと赤マジックで色分けして作成した。作成時間は10分ほどである。

4. 校内教材交流会のアンケートから

- それぞれとても工夫され、目的、めあてもしっかりされており、授業内容もとても勉強になった。
- 他学部の授業内容や様子の動画などが見れて参考になった。
- 当日、体験にするか実演にするかで担当者と話し合うことがあったので、事前にどのような体験になるのか、詳細を知っておく方が慌てなくてよいと思う。(どこまで体験してもらうのか、完成品を持ち帰るのか等)
- 地区支研と連携して校内教材交流会と同日開催した方が一日で全てやりきることができたのでよかった。
- ブース毎に支援部の方が対応していたので、地区支研が100人単位でもスムーズに運営できていたと思う。